壁新聞による小学校の紹介	（２）小学校との連携・交流
施設種別	**学校法人国際学園ひばり幼稚園（私立幼稚園）　（作成者職名）　教務主任**
園概要	●園児数：214 人（うち、5 歳児 67 人）5 歳児クラス：2 クラス ●就学先小学校数：11 校 ●主な就学先小学校及び予定人数：検見川小学校 18 人、真砂西小学校 12 人、幕張南小学校 8 人、稲毛第二小学校 5 人、真砂東小学校 4 人、幕張小学校 4 人、打瀬小学校 4 人、その他 12 人 ●閑静な住宅街の中、近隣には保育所・中学校・高等特別支援学校、小学校等があり、まさしく「子育てに適した環境」となっています。未就園児については、園周辺は高齢化が進み少なくなってきています。しかし、隣の地域は大規模な商業施設やマンションが次々と立ち並び、そこからの入園者が増えています。
＜実施時期＞	令和 4 年 1 月～3 月にかけて

＜幼児期の終わりまでに育って欲しい姿に繋がる部分＞

・幼稚園との環境の違いを知る事による道徳性・規範意識の芽生え、言葉による伝え合い、標識や文字等への関心・感覚などです。

＜活動のきっかけ＞

・毎年、3 学期に地域の小学校との交流があり、一年生をお招きしてふれあい遊びをしたり、逆にこちらから訪問させていただき体育館や教室でゲームをしたりして楽しく過ごす活動がありました。ただ、昨年に引き続き今年もコロナ禍のため中止となりました。その事もあり、例年以上に進学に対して不安を感じている子もいたため、せめて写真だけでもと思い掲示しました。

＜活動のねらい＞

・「小学校は国語・算数・理科・社会のお勉強をするところ」と感じている子が多く、その分「楽しみ」より「不安や戸惑い」を口にする子もいます。確かにお勉強も大切ですが、それ以外にも「こんな面白い活動があるのだよ」「部活動もあるよ」等、楽しい授業や活動があることを伝え、少しでも小学校は楽しいところと思ってくれる“きっかけ”になれば良いと思っています。

＜経験する内容＞

・写真で見る事により、小学校の雰囲気や特徴が分かり、興味を持つ事が出来る。
・園児たちが普段行き来する玄関ホールに貼り出す事により、他学年との話題のきっかけやお迎えに来た保護者にも関心を持ってもらえる。
・小学校について感じた事を発表し、友だちも同じ思いである事に気付く。

＜新型コロナウイルス感染症に対する活動の工夫＞

・コロナ禍の中、実際に子どもたちが小学校へ訪問したり、園にお招きしたりする事は難しいので、職員一人が出向き、小学校の先生の話を聞きながら校内の写真を撮らせていただきました。今後も出来る範囲で小学校と連携を取り合い、感染状況を鑑みながら進めていきたいと思います。
・小学校の手洗い場の写真を掲示する事により「小学校でもハンドソープがあるんだね」「幼稚園より沢山あるね」等の話が子どもたちから出ました。感染対策については子どもだけでなく保護者も不安に感じていると思いますので、引き続き保護者にも発信していきたいと思います。

＜活動の内容＞

園職員が放課後小学校に赴き、子どもたちは入学後どこを通って、何をして、この教室に入れば自分たちの教室だから大丈夫、というような道順を辿って写真を撮っていきました。壁新聞に貼り出す時は教室の名前や何をする場所か等の説明も書き加え、園児たちが不安に思わないよう配慮しました。

【子どもたちが特に興味を持って見たり、驚いたりしていた写真の紹介】

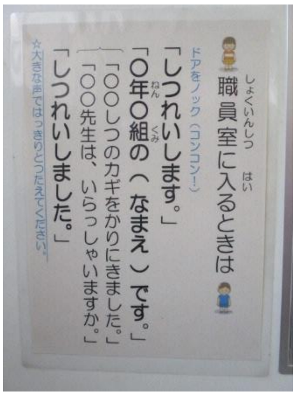
◆まずは下駄箱です。幼稚園の下駄箱よりずっと高くて大きい事に驚いていました。また、どれくらい大きいのか目安となるように、私自身も一緒に写りました。

◆下駄箱以外にも教室の机に座った写真や、身長計で測っているところの写真も撮り、その大きさを感じられるようにしました。

◆子どもたちは「ウォーリーを探せ」ならぬ「先生をさがせ」といったゲーム感覚で見入っていました。

★図書室に「コタツ」がある事に驚いていました。残念ながら今はコロナ対策で使用できないのですが、「コタツ、お家にもある♪」と言う子もおり、親しみが湧いたようです。

★他にも、図書室には 6,000 冊もの本がある事、マンガや新聞もある事等を伝えると「すご～い！！」と驚いていました。

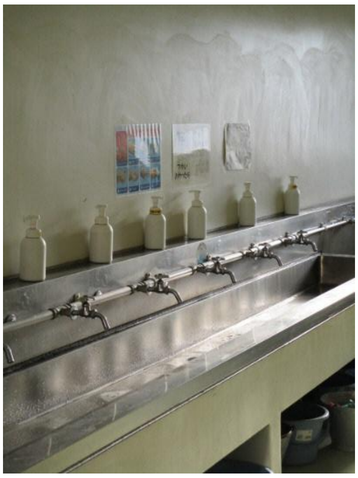


◆この写真の張り紙のように幼稚園の職員室に出入りする時も「失礼します」「失礼しました」と挨拶する事を習慣付けています。そのためこれを読んだ子どもたちも「僕たちもやってるよね」「小学校はお名前も言うんだね」と友だちと話していました。

◆この他にも「走らない！！」「おかしも（おさない、かけない、しゃべらない、もどらない）」の貼り紙の写真も掲示したので、「幼稚園と一緒だね」と安心する様子もありました。

★保健室のベッドの写真も掲示しました。近年、幼稚園では「心の切り替え」が上手く出来なくて癇癪を起したり、泣いたり、動かなくなったりする園児が増えています。そういった子どもたちがクールダウンする目的で幼稚園のベッドを利用する子もいます。

★怪我や具合が悪くなった時だけ保健室を利用するのではなく、そのような時にもベッドで休んで良い事を伝えると、特にクールダウンの必要な子は安心したようです。



◆手洗い場の写真です。大きめのハンドソープが整然と並べられている様子に「幼稚園より（ハンドソープが）沢山あるね」と数えている子もいました。

◆コロナ禍で一日に何度も手洗いをする場面があるので、この写真を見て「小学校へ行っても手洗いはしっかりとするんだ」という意識が芽生えた事と思っています。

◆手洗い場と一緒に和式トイレの写真も貼り出しました。今は家庭でも外でもほとんどが洋式トイレなので、園でも和式トイレの練習をしていかなければいけないな、と思いました。

★この写真を見せながら「小学校では、教室やトイレは全て子どもたちが掃除する」事を伝えました。子どもたちは元々掃除が好きなので「やったー！」と喜ぶ子が多かったです。

★幼稚園では、学期末ごとに大掃除をします。子どもたちにもミニ雑巾を持たせて拭き掃除をするのですが、ほとんどの子が雑巾を上手に絞る事が出来ません。家庭での経験が少ないのか、足手まといになるから手伝いをさせないのか等の理由からだと思うのですが、だからこそ園では雑巾の絞り方や拭き方などをしっかりと教えています。子どもたちは嫌がらず楽しんで拭き掃除をしています。

★一度、横一列に並んでよーいドン！で拭き掃除をした時、前につんのめって前歯をぶつけた子がいるので、以来その競争は止めました。

◆一日の時間割表を見ながら「先生、小学校はお外遊びは無いの？」と聞いてくる子がいました。確かに幼稚園と小学校では同じ事や物でも呼び方が違う事に気付かされました。「お外遊びはありますよ。小学校では「ぎょうかんやすみ」と言います」と伝えたら、「良かった〜」と安心していました。

◆「こくご」「さんすう」等についての質問は出なかったので、子どもたちの中でもおおよその見当（勉強）はついているのだな、と感じました。

★教室に１台ずつテレビがある事に驚いていました。幼稚園には職員室（防犯用）と玄関ホール（太陽光発電の表示）しかないので嬉しそうでした。

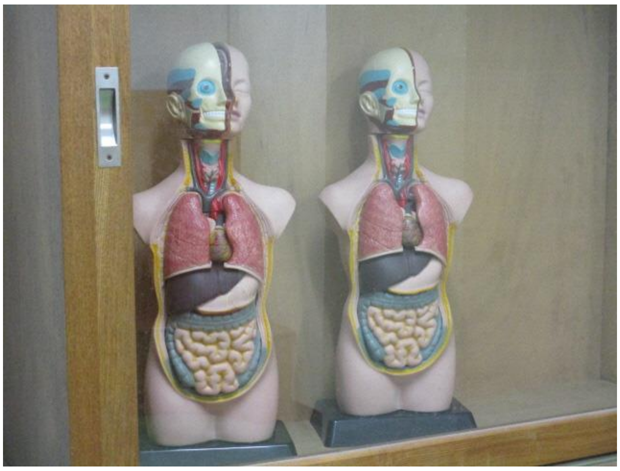
★このテレビは勉強用に使ったり、校長先生のお話を聞いたりする時に使う事を教えました。

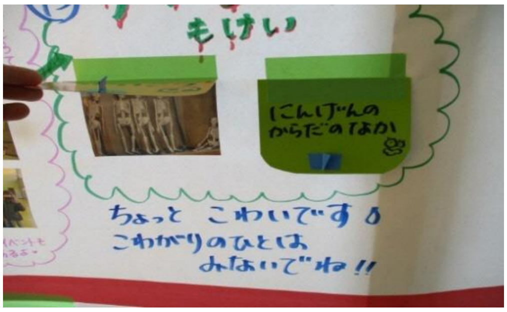
◆校長先生の写真も撮らせていただきました。子どもたちは写真を見ながら「園長先生って事？」と聞いてきました。「そうです。幼稚園では園長先生が一番偉いけど、小学校では校長先生が一番偉いのですよ。校長先生は園長先生と同じようにとても優しいから、何でも聞いてみてくださいね」と伝えました。

◆子どもたちは、「学校の先生は怖い」というイメージを持っている子も少なくありません。多分アニメ等のテレビの影響もあると思います。実際はそのような事はないよ、という事を伝えましたが、もちろん「いけない事」をしたら叱られるよ、という事も付け加えました。皆、苦笑いをしていました。

★伺った日に、たまたま「わくわくキャンパス」という放課後の活動をしていました。これは保護者や地域の方が子どもたちのためにゲームをしたり、楽しい活動をしたりするものです。

★園児たちはこの写真を見て「チコちゃんだ♪」と喜んでいました。小学校は勉強だけでなく、このような楽しいイベントもあるという事が分かったようです。

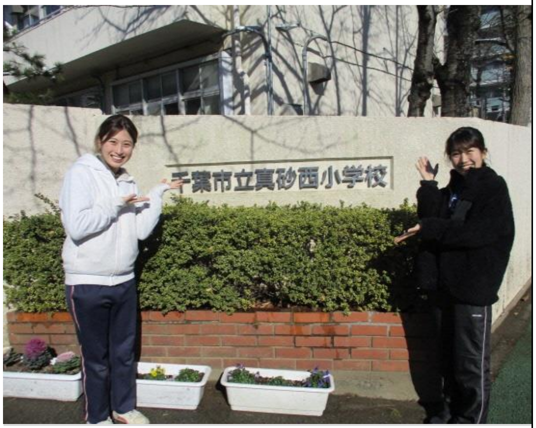
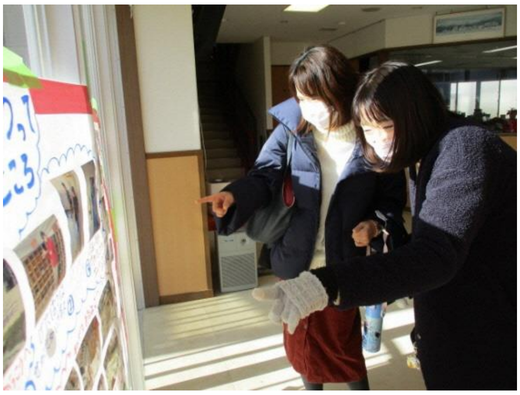




小学校と言えば「学校の怪談」!!

◆学校に行くのが怖くなってしまわないかどうか、迷いながら載せました。結果は載せて大成功でした！！

◆年長だけでなく、全学年の子が一番見入っていました。左のように、めくると写真が見られるように作ったので、ますます怖いもの見たさで興味津々に見ていました。

＜活動でみられた子どもの姿＞	＜環境構成・教材や保育者の援助等＞
◆まずは小学校の正門前でクラス担任の写真を撮りました。この写真を一番に掲示する事で子どもたちも「あっ、先生だ！」と見つけて安心したようです。 ◆「小学校は勉強するところ」「小学校の先生は怖い」「給食は全部食べなければいけない」と言ったイメージが強いようです。そのような事は無いよ、という事をこの壁新聞を見ながら丁寧に説明していきました。 ◆写真で見る事により、小学校の雰囲気や特徴が分かりやすく、友だちも同じ思いである事に気付いたようです。 ★正門から玄関→下駄箱→廊下→教室→トイレ→職員室→保健室→図書室→校庭等など・・・。順を追って分かりやすいように掲示しました。 ★子どもたちは小学校にエレベーターがあったり、右側通行である事に驚いていました。また、幼稚園と同じように「廊下は走りません！！」と赤字で書かれているポスターを見て「幼稚園と同じだね」と苦笑いをしていました。 ◆玄関ホールに貼り出した事で、玄関を通るたびに興味を持って見たり、眺めたり、友だち同士で話し込んだりしている姿が見られました。やはり「学校の怪談」コーナーが一番人気でした♪ ◆年長だけでなく、他学年の子どもたちも見入っていました。自分のお兄ちゃんやお姉ちゃんが小学校へ通っている子も多いので、その子たちが「僕、ここ知っているよ！」と得意げに教えている姿も見られました。 ★保護者の方も立ち止まって見ていました。この二人の保護者はちょうどこの小学校にお兄ちゃんお姉ちゃんを通わせている方だったので、壁新聞を見ながら「あれ、校長先生変わったんだっけ？」と話していました。 ★保護者も「学校の怪談」を見ながら笑っていました。「うちの娘が言っていたのは、この事だったのかぁ！」とも言っていました。家庭で話題になっていたことが嬉しかったです。	 

＜今回の成果＞

子どもたちに「小学校ってどんなところかな？」と質問したところ、「小学校は国語・算数・理科・社会のお勉強をするところ」「先生は怖い」「給食は全部食べなければいけない」等のマイナスのイメージを持っている子が多かったです。マンガの影響や大人の「そんな事をしたら小学校へ行けないよ」といった何気ない言葉から敏感に感じ取っているようです。確かに幼稚園と比べるとそういった面もありますが、それだけではない事、楽しい事が沢山ある事を具体的に伝え、壁新聞の写真を見せていきました。

その結果、小学校に対する敷居が低くなったように感じます。本当は子どもたちが実際に小学校へ赴き、一年生と一緒にゲームをしたり遊んだりする事が一番の幼保小連携になるだろうと思いますが、コロナ禍ではそうもいきません。とりあえず出来る事を少しでも、という思いから作ってみました。子どもたちの壁新聞を読む楽しそうな表情を見ると、頑張って作って良かったなと感じました。

＜子どもたちから出た質問＞

園児たちの小学校に向けての素朴な質問に、小学生のお兄ちゃんお姉ちゃんが答えた内容を少しですがお伝えします。

① **Q：教室にあるテレビはお家にあるのと同じですか？**
A：お家のテレビと同じように普通の番組も映るけど、学校では校長先生の始業式の挨拶やクイズやマジックも映します。授業中、教科書を映して後ろの席の人が見やすくする事もあります。

② **Q：給食が食べられなくて残していいか先生に聞いた時、ダメって言われたらどうしよう？**
A：ダメって言われることはないよ。苦手なものは一口か二口は頑張って食べなきゃいけないから、お家で練習しておくといいよ。

③ **Q：給食の牛乳が飲めなかったら残していいの？**
A：飲める分だけ飲んで、あとは残して大丈夫だよ！

④ **Q：楽しい授業は何ですか？**
A：体育です。あとは音楽も楽しいです。　　等など・・・

＜小学校に向けてのスムーズな連携について＞

子どもたちがスムーズに小学校へ上がるためには、まずは幼稚園の職員と小学校の職員がスムーズに連携をとっていく事が第一だと考えます。ついつい日々の雑務に追われ、小学校との連携を億劫がる自分がいますが、そこは可愛い子どもたちの為にも頑張っていきたいと改めて思いました。

＜今後の課題＞

今後の課題ですが、意外と給食について不安に思っている子が多かったです。コロナ禍なので給食を参観させていただく事が難しく、今回は触れる事が出来ませんでした。次回、感染状況によっては参観させていただいたり、メニューについて載せてみたりしていきたいです。

＜最後に＞

コロナ禍でも小学校に向けて不安に思っている子どもたちのために出来る限りの事をしていこうと改めて思いました。今回このような機会をいただきありがとうございました。

＜カリキュラムコーディネーターのコメント＞

〇園の特徴と取り組みの工夫

ひばり幼稚園の近隣には保育所・中学校・高等特別支援学校、小学校等があり「子育てに適した環境」として地域の教育に大きな役割を果たしていました。そして、主な就学先も検見川小をはじめとして 7 校以上と多く、幼保こ小の連携には様々な工夫が必要だったと推測できます。その状況に加えてコロナ禍の拡大、これまで実施されてきた小学校との交流会の中止という大きな課題の中でのアプローチカリキュラムへのスタートでした。そんな中、保育者の英知を活かして、子どもたちのために小学校との連携を創意工夫して臨んだ実践は大きな成果を生み出しました。

①小学校の写真を掲示して、小学校への興味関心を引き出した！

小学校への入学に不安を抱える子どもたちに「小学校はたのしいところ」というメッセージを伝えるために、少人数の職員で小学校訪問を実施し、保育者の子どもを想う愛情たっぷりのスナップ写真を撮影しました。これは「今できることをする！」という苦しい中でも新しいことを生み出そうとする保育者の逆境だから生まれたアイディアだったと評価できます。

②掲示場所の工夫で子どもたちの交流、保護者の交流を生み出した！

写真の掲示場所は子どもたちの目線を第一に考え、小学校内の道順が辿れるように写真を撮影し、さらに写真に説明を加えた壁新聞にしたことなど子どもたちがワクワク・ドキドキしながら小学校の楽しそうな雰囲気を感じ、安心感を得るような配慮と工夫は素晴らしいと感じました。撮影された写真も下駄箱、保健室、手洗い場と子どもの学校での生活に密着した写真や理科室の骸骨や人体模型といった子どもたちが怖がりながらもきっと喜ぶと思う、写真の撮影のセンスにも驚かされました。

③小学校への興味関心を子どもたちと保育者が考え合う場にした！

玄関ホールへの壁新聞の掲示は、日常の登園時の子どもたちの会話を生み、年下の子どもたちにも伝番し、保護者にとっても玄関ホールが情報交換の場になったことが、小学校の交流会に劣らず多くの体験を生み出すことができたと評価できます。毎日、子どもたちは壁新聞を目にして、情報を共有しながら小学校への入学に期待を膨らませたのではないかと思います。その、効果が結果、子どもたちからの楽しい会話を生み出したと思います。給食への質問が多かったので、給食の写真も撮れるともっと盛り上がったかも知れませんね。

〇さらなる展開に向けて

今後も、小学校との連携を日常に埋もれることなく継続し、子どもたちの声にしっかりと耳を傾けて今回の取り組みのような「子どもの目線」を大切に頑張って欲しいです。応援しています。

【冨田久枝／とみた　ひさえ】千葉大学教育学部特命教授、博士（心理学）、カウンセリング修士、臨床発達心理士等。22 余年にわたり、幼稚園教諭として勤務。千葉大学では実務家教員として保育者養成に携わり、研究テーマは「保育者の援助スキルの研修」や「持続可能な社会を創る保育内容」など保育実践の研究、一方で保育臨床に関する研究や「保育カウンセラー」の養成も行っている。著者は『子どもはせんせい』（北大路書房、単著？）、『改訂新版　保育カウンセリングへの招待』（北大路書房、共著）　、『保育現場で使えるカウンセリングテクニック』（ぎょうせい、共著）、『持続可能な社会をつくる日本の保育』（かもがわ出版、共著）他。